

## GPS を使って地図を作ろう

伊藤 純子 (千葉市)

日 時：2010年1月21日（日）10：00～16：20

場 所：昭和の森（野外実習） 千葉市ユースホステル（講義）

参加者：27名

GPS を使って樹木マップを作る研修があるので参加しませんか、というお誘いがありました。2年前の植生調査で初めて GPS を使ったきり、それ以降一度も GPS を使うことなく、相変わらず植物名を地図に書き込むスタイルをとっていたので、「参加します」と即答しました。当日会場に着いてびっくり。はるばる京都、三重など遠方からの参加者がいらしたからです。興味本位で参加した自分とは意気込みがまるで違い、お正月気分もふっとびました。

オリエンテーションの後、グループごとに機材と地図が渡され実習の始まりです。我が班の課題はヒノキ、スダジイ、クヌギを見つけ、胸高直径を計り、写真を撮影すること。機材はいたってシンプルで、①掌サイズの小さな GPS ②デジタルカメラ ③巻尺 ④記録用紙のたった4点だけ。面倒な操作がいるのでは？と危惧していたGPSは、スイッチを入れて特製野球帽の中に収納し、帽子をかぶって歩くだけという手軽さでした。初対面の方ともすぐに打ち解け、交代で写真や記録をつけながら、暖かな冬の森を歩きました。簡単な調査だったのですぐに慣れ、調査項目にはないケンポナシやイチャクソウ、おまけにジョウビタキの位置まで記録してしまいました。

午後からは昭和の森の概要、植生の歴史的変化について、佐野講師からお話を伺いました。何度も来ている昭和の森ですが、知らないことばかりでした。特に印象的だったのは、スギ・ヒノキと共に、アカマツの人工林だったという事実です。あまり見かけることもないので、ここがアカマツ林だったという認識が今までなく、とても新鮮でした。また、1947年、1974年、2000年の3枚の航空写真の比較は、昭和の森の変遷がよくわかる教材でした。意外なのは40年前より今の方が、緑の量が多くなったことです。ここに1本しかないアスナロは境界木として植えられたと伺い、今度密かに2本目、3本目を探してみようという意欲がわきました。

講義の後はいよいよ今日の本題、生きもの地図作りです。GIS（地理情報システム）というソフトを使って樹木の位置とGPSデータを付加した写真を地図上に表示させます。このパソコン操作はマニュアルに従ってやれば出来るとの事ですが、果たしてひとりでうまく出来るか？初心者の私にはちょっと不安が残っています。ともあれ出来上がった各班のデータを1つにまとめると、漠然としていた樹木分布が具体的な形で浮き上がってきました。今頃になって、今日の調査実習の目的・意図がわかったと言ったら申し訳ないのですが、正直なところわからないまま調査をしていたので、やっと納得できました。デジタルデータを作成してしまえば、さまざまな地図や航空写真など組み合わせることもでき、とても便利だと思いました。

結果はNACS-JのHPをご覧下さい。日本自然保護協会NACS-J：<http://www.nacsj.or.jp/>

最後に位置情報の活用の仕方について伺いました。今回、私が一番知りたい内容です。偶然にも前日に講義を受けた先生のデータが、例として取り上げられていたので、活用事例がよくわかりました。残念ながら、私個人は群落単位の調査が多いので、GPSの精度を考えると、まだ今の時点ではGPSが有効活用できそうにありません。しかし班の方からGPS内蔵カメラやGPSユニットキットの情報を教えていただきましたので、当面はそういうものを利用しようと思っています。GPSを利用してすることで、誰にでもわかりやすく、客観的に生物多様性を実感できるデータが作成できるのはとても魅力的で、いろいろな可能性が広がりそうです。今後、テーマの選定や解析の手法を学んで、GPSという新兵器を活用していきたいと思いました。

講師・スタッフの皆さん、ありがとうございました。